

家持のまなざし

中西進

二〇二〇、九、五 高岡文化ホール

一 能登そして「家持屏風」

養老 2 (718) 能登国設置 家持誕生

天平 13 (741) 能登国越中編入

18 (746) 7月 赴任

19 (747) 2、3月 病臥

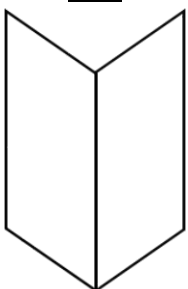
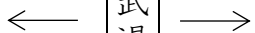
20 (748) 1月 巡行(後半能登)

勝宝 1 (749) 5月 出金詔書 7月

2 (750) 3月 春苑桃李ほかの歌

3 (751) 8月 帰京

聖武退位



二 天平の眼、勝宝の眼

能登巡行の歌(抄)

発見 旅 朝 鄙 自然

1 之乎路から直越え来れば羽咋の海朝凧ぎしたり船櫂もがも

(卷十七・四〇二五)

能登郡の香島の津より発船して、熊来村を指して往きし時に作れる歌二首

2 鳥総立て船木伐るといふ能登の島山 今日見れば木立繁しも幾代神びそ

(卷十七・四〇二六)

能登郡より発船して治布に還りし時に、長浜の湾に泊て、月の光を仰ぎ見て作れる歌一首

3 珠洲の海に朝びらきして漕ぎ来れば長浜の浦に月照りにけり

(卷十七・四〇二九)

春苑桃李の歌(抄)

沈潜 苑 夜 都 花鳥

天平勝宝二年三月一日の暮に、春の苑の桃李の花を眺めて作れる二首

1 春の苑紅にはふ桃の花下照る道に出で立つ少女(卷十九・四一三九)

飛び翔る鴨を見て作れる歌一首

2 春まけて物悲しきにさ夜更けて羽振き鳴く鴨誰が田にか住む

(卷十九・四一四一)

遙かに江を浜る船人の唱を聞ける歌一首

3 朝床に聞けば遙けし射水川朝漕ぎしつ歌ふ船人(卷十九・四一五〇)